

すぎなみ版「TEAM NAMISUKE」活動報告

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、より多くの方が、気軽にボランティア活動に参加できる場面を創出する区独自のボランティア登録制度である「TEAM NAMISUKE (チーム ナミスケ)」に登録し、ボランティア活動を行いました。

杉並区はイタリア、パキスタン、ウズベキスタンの3カ国を来年の東京2020オリンピック・パラリンピックにおけるホストタウンとして、大会直前に事前キャンプ会場を提供し、応援する予定です。

大会が延期となった今年は、7月に杉並区役所において各国の紹介展を開催しました。

区役所にはいろいろな届け出等で訪れる方が大勢おり、来庁のついでに紹介展をご覧になれるケースが多く、残念ながら事前キャンプについては、ご存じのない方が大半で、まだまだ周知していく必要を感じました。

イタリアに結婚前に旅行し、大変楽しい思い出をお持ちの婚姻届けを出したカップルの方、ウズベキスタンをよくご存じの方、パキスタンの人口が2億人以上いることに驚く方などがいて、楽しく説明を聞いてもらえました。

イタリアではローマの名所、トレビの泉などの美しい写真、パキスタンは伝統的な数物や岩塩を紹介し、ウズベキスタンは陶器やウズベクおじさんの人形、モスクや結婚式での花嫁の写真を紹介しました。



この紹介展の案内と説明は杉並区のボランティアの方々が行いました。ぜひ皆さんも登録してもらえればと思います。
※ホストタウンとは東京オリンピック2020大会に向けて地域の活性化や観光振興などの相互交流を図る地方公共団体を国が登録する制度です。(広報0)

日本語スピーチ大会 参加者による日本語スピーチ

今年3月7日(土)に杉並区、東京杉並ロータリークラブと当協会の共催で行われた「第17回日本語スピーチ大会」の発表者が、7月30日(木)のロータリークラブの例会に招かれ、日本語でスピーチを行いました。

当日は、カンボジア出身のNeang Chanetさん、中国出身の桂融さん、ベトナム出身のHoang Thi Anhさんが参加しました。コロナ禍で大変な中、皆さん、日本で一生懸命勉強を続けておられ、大変上手なスピーチを披露してくださいました。今後も皆さんが日本と自国の懸け橋となり、益々活躍をされることを期待しています!



★★★ コミュかるショップからのお知らせ ★★★

12月上旬に「名寄もちフェア」を開催します。



杉並区役所1階のコミュかるショップでは、12月1日(火)から12月11日(金)まで「名寄もちフェア」を開催します。

もち米を昔ながらのセイロで蒸し、白杵で搗きあげた、粘りとコシの強いお餅です。
種類：豆・草・玄米・白餅の4種類

販売と同時に品切れとなる商品もありますのでフェア開催中は、お早めにお立ち寄りください。

場 所	杉並区役所 1階ロビー
営業時間	9:00~16:30 (月~金) ※月末は棚卸しのため 9:00~12:30 ※土日祝日・年末年始をのぞく
杉並区の交流自治体	北海道名寄市、群馬県東吾妻町、新潟県小千谷市、福島県北塩原村、福島県南相馬市、東京都青梅市、東京都武蔵野市、山梨県忍野村、静岡県南伊豆町、東京都小笠原村

交流協会の会員になりませんか? 杉並区交流協会では、国内・国際交流の推進をはかるために、様々なイベントを企画しています。あなたも会員になって、楽しく交流しませんか?

年会費
・個人会員 1,000円/年
(9月以降入会の場合は初年度に限り500円)
・法人会員 20,000円/年
会員期間
入会の月から3月31日まで(当年度末)

会員特典
① イベントの情報や交流に関する情報紙 [交流ニュース (年4回発行)・NEWS LETTER (年8回発行) など] をお届けします。
② 協会が実施するイベントに優先的に参加できる会員枠があります。
③ イベント参加費に会員割引があります。

申込方法
入会希望の方は杉並区交流協会まで電話・ハガキ・Fax・E-mailにより申込書類をご請求ください。

すぎなみ交流ニュース

Suginami Cultural Exchange News

第58号

2020年10月

스기나미 교류 소식
杉並的交流消息

発行：杉並区交流協会
[Suginami Association for Cultural Exchange(SACE)]
〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階
[Minami-Asagaya Bldg. 5F 1-14-2 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan]
TEL.03-5378-8833 FAX.03-5378-8844 E-mail: info@suginami-kouryu.org

<http://www.suginami-kouryu.org/>

◆年4回発行◆ 協会情報誌は区内施設窓口、区内の駅広報スタンドなどに置いてあります。



HP・Facebook 随時更新!!



目次

日本語教室 (LTC) 瑞草区職員からの便り 2
まると台湾フェアの報告 3
すぎなみ版ボランティア [TEAM NAMISUKE] 活動報告 他 4

海外文化セミナー ウズベキスタン

杉並区交流協会が毎年開催する「海外文化セミナー」。今回は、東京2020オリンピック競技大会で、杉並区がホストタウンとなり、ウズベキスタンのボクシングチームを迎えることを記念して、「ウズベキスタン」を取り上げます。



カルタ・ミナール[ヒヴァ] Jin Akino

【日 時】 2020年11月28日(土) 12:00~16:00
【会 場】 セシオン杉並 ホール、1階展示室 (杉並区梅里1-22-32)
※車でのご来場はご遠慮ください。
【内 容】 講演、民族楽器ドゥターールの演奏、民族舞踊、写真展「ウズベキスタン文化の魅力」、伝統衣装・工芸品等の展示、東京2020オリンピック競技大会 ホストタウン相手国紹介、物産販売等
入場無料/ホールの観覧は要予約。詳細は、10月下旬に協会ホームページにてお知らせします。
<https://suginami-kouryu.org/>

【問 合 せ】 杉並区交流協会 Tel: 03-5378-8833



※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、イベントが今後中止または内容が変更となる場合がございます。詳しくはホームページでご確認ください。

日本語教室(LTC友の会)

毎週、月曜日から金曜日まで交流協会の会議室で、日本語教育に取り組む3つのボランティアグループが主催し、外国人向けに、日本語の理解と活用のための「日本語教室」を運営しています。そのグループ中から「LTC(Language Training Circle)友の会」の活動内容について紹介します。

活動は1994年から今年度で26年目を迎えています。9月1日、教室が設けられている交流協会の会議室に取材に伺いました。折からの「コロナ禍」の状況の中での再開ということで、それ以前の体制や学習環境は異なりますが、様々な工夫や配慮のもと粛々とそして熱心に活動を継続していました。

教室は、火、木曜日の午前、午後、それぞれ午前はグループレッスン(スタッフ1:学習者2構成の3グループ)、午後は個人レッスン(1:1の5グループ)、という形態をとりつつ学習者が魅力に感じ、そして語学力がより向上するように、身近なテーマや個性などに照らし合わせた内容で進行します

発足時から約60カ国の人々がこの「LTC友の会」の日本語教室で学習してきたそうです。そんな中にはこの会への参加が「心の支え」になったり、また日本への関心が一層高まるといった、単に「語学力の養成」という範囲には留まらない様々な「展開」が窺えます。

「活動は、生きがいなんです」と語るスタッフの皆さんが、一人ひとりの学習者に寄り添う姿勢は、学習者用データとしての「個人カード、カルテ、指導表」などを通してその熱意が伝わります。このような密度の濃い学習がひいては文化としての「言葉力」に繋がっていくのではといった思いを強くしました。(広報Y)



↑教室の様子:個人レッスン
←様々な個人カード
↓右:松田有為子さん(会代表)左:山形美保子さん(会副代表)



瑞草区職員からの便り

2016年7月~12月まで杉並区に交流職員として滞在された韓国ソウル特別市ソッチョ区 ユピョンジン 柳炳振さんに韓国の食文化紹介記事を送っていただきました。

◆韓国人のソウルフード「クッパ」

日本には多くの魅力的な食べ物がありますが、その中で老若男女問わず愛されているソウルフードは何かと聞かれた際に「ラーメン」と答える人が多いのではないのでしょうか。



日本で有名な韓国料理といえば焼肉料理やビビンバ、チヂミですが、日本でのラーメンと同様に韓国人に愛されている料理といえば、クッパを外すことは出来ません。

クッパは、スープにご飯を入れて食べるもので、牛肉や豚肉を具材に使った様々な種類があります。今回は、そのうち代表的なクッパを紹介したいと思います。

◆スンデクッパ

豚の大腸の中に野菜と麺とタレを入れて混ぜた料理をスンデといいます。スンデと豚の内臓副産物を豚の出汁に入れて食べる料理方法が一般的ですが、最近では牛骨や様々なスンデクッパがあり、好みによって刻んだタレやニラを入れて食べます。

◆ユッケジャン

甘みのある牛の胸肉を裂き、ネギとナムルをたっぷり入れて辛く煮込んだピリ辛な味のスープで、好みによって麺を入れてラーメンのように食べるのが現在流行しています。

◆牛頭クッパ

鍋に牛の頭骨と牛骨を入れ、10時間以上煮込みスープを取った後、再び牛の頭肉と大根や里芋を入れてじっくり煮た後、タレを入れ「カクテキ」(大根のキムチ)や白菜キムチなどを添えて食べます。

【クッパの起源】

クッパの起源や歴史、そして語源については残念ながら正確な記録が残っていません。

ただ有力な説は、「ソルロンタン(スープ)」が語源で、朝鮮時代に王が、農家の成功を願う祭祀を行った際に、行事が終わった後に宴を開き、肉を求めている労働者のために肉入りスープを出したことがあり、このことが広く知られるようになりクッパの起源となった可能性があります。

また、行商人が長距離、荷物を運ぶ際、移動途中において簡単に食堂や居酒屋等で食事を取ることが出来るように工夫され、それが韓国のファーストフードの始まりだったとされています。

以上、韓国のコストパフォーマンスが高い庶民の食べ物「クッパ」について、簡単に紹介させていただきました。韓国には沢山のクッパがあって、料理方法も多いため色々な味を楽しむことが出来て面白いです。

皆さんも現在は、新型コロナウイルスで大変だと思われていますが、この状況が良くなりましたら隣国の韓国へ訪れ、クッパを味わってみてはいかがでしょうか。



ユピョンジン 柳炳振さん

まるごと台湾フェア2020

9月19日(土) 10:30~16:30
於: セシオン杉並

杉並区と台北市との文化交流は2010年に杉並区軟式野球連盟から出された要望をきっかけに、中学生野球チームの親善試合、台湾ツアー、「東京高円寺阿波おどり」台湾公演などへと広がってきました。また「交流推進宣言書」を取り交わした2013年からは、「まるごと台湾フェア」を開催しています。今年はコロナ禍での開催となり、内容を縮小せざるを得ませんでしたが、参加者のコメントに関係者一同励まされました。(広報O&T)

◆参加者のコメント

「コロナ禍で大変な時に開催してくださり有難かったです。こじんまりとしていましたが手づくりの温かさが楽しめました」、「写真・映像・物産店の方々から行けない台湾の人や街、自然、雰囲気を感じられて幸せでした」、「コロナ禍で規模は縮小されましたがテーマを決めた企画でよかったです」などなど。



オープニングセレモニー
左…台北駐日経済文化代表處 謝代表
右…杉並区 田中区长



展示場の様子



昨年出店参加していた杉本さんに再会。杉本さんは心配する両親を説き伏せて、1年間の約束で来日しましたが最愛の人と巡り合い結婚。「台湾の家族とはよくLINEで話しますから、もう心配していません」。日本と台湾は相互に生活圏の一部になっているのかもしれない。

「台湾スパイス」の小林さんから馬告(マーガオ)について伺いました。「馬告は昨年ヨーロッパで話題になりました。もともとはタイやル族のスパイスです。香りはレモンライム、味は柚子や胡椒に近いです」。日本にはまだ200kgしか輸入されていない「奇跡のスパイス」です。

「土産台湾」の高橋さんはパートナーと年に3~4回は台湾旅行に出かけます。気に入った台湾の民芸品や雑貨

をもっと多くの人たちに知ってほしいと店を始めました。高橋さんを台湾に導いたのは少林寺拳法でした。

台湾の民芸品やアクセサリーを扱う「山梨台湾会」の田村さんは台湾出身。台湾人コミュニティ(山梨台湾総会)の活動も行なっています。

台湾フェアはこのような参加者と出店者それぞれの「台湾愛」に支えられています。



藤樫寛子さん動画上映室

「行きたくてもいけない今だから動画を通して『行ったつもり台湾ツアー』を味わってください」とコーディネート通訳の藤樫寛子さんから届いた動画を上映。

10人の台湾人写真家による台湾鉄道写真展。「鉄道ファンなので興味があった。昭和の時代が漂っていた」と大好評。



台湾鉄道写真展

◆映画「52Hzのラブソング」

舞台は台北市主催の合同結婚式が開催されるバレンタインデー。台湾映画研究家・稲見公仁子さんによると、「花屋で働く女の子とチョコレート職人の青年、夢を追い続ける作曲家とその恋人を取り巻く、さまざまな愛を描いたミュージカル映画…愛らしいロマンチックコメディ」です。参加者のコメントを読むと、ウェイ・ダージョン監督の思いが十分に伝わったことが分かります。

「歌がすてき。明るい映画に幸せな気持ちになりました」、「現代の台湾がうかがえて面白かった」、「心が温かくなるかわいい映画でした」、「想像以上に楽しく、しゃれた演出に引き込まれた」などなど。

私にとって印象的だったのは、女性カップルの存在がしっかり描かれていたところです(ポスターの中にも写っています)。映画の公開は2017年。同性カップルには合同結婚式の参加資格がないため受付でもめませんが、最後には「非公式」に参加が認められます。

台湾は2019年5月、アジアで初めて同性婚を合法化。2017年は司法院大法官會議(憲法裁判所)が同性婚を認めないのは違憲だと判断したからです。単なる偶然でしょうか。台湾の人たちが社会の変化をしなやかに受け止めるダイナミズムを感じます。

「2019年5月17日、台湾では愛が勝った。私たちは真の平等に向かって大きな一歩を踏み出し、台湾をより良い国にした」(蔡総統のツイッターより)。